

3・11後を生きる

こちら原発取材班

ホームページ genpatsu.tokyo-np.co.jp
ツイッター @kochigen2017

葛飾区 水元公園の放射能汚染は

東京23区で最大規模を誇り、湖沼の景観が広がる都立水元公園(東京都葛飾区)。東京電力福島第一原発から200km以上離れるが、都内の公園では事故の影響が最も強く残る。首都圏で測定活動を続ける丹野心平さん(39)と森本祥江さん(58)とともに調べた。

調査は、都環境局職員との立ち会いのもと9月中旬に実施。都心近郊のホットスポットに近いとはいえ、正直なところ「大したことはないだろう」と思っていた。歩道の放射線量は、都心よりわずかに高いかどうかというレベルだった。

しかし、いざ各地の土壌を採取して放射性セシウムの濃度を調べると、29地点のうち12地点で放射性廃棄物の基準(1kg当たり8000Bq)を超えた。

濃度の高い地点は、雨水が集まりやすい少し低い場所が多かった。ただ、地形的な変化のない場所でも数千ベクレルあるのには驚かされた。濃度の割に放射線量が低い地点も散見されるが、汚染土の分布が狭いためとみられる。

(山川剛史)



放射線量を測定する丹野心平(右)と記者が採取する山川剛史